

問1	縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。（2016年 愛知県公立入試 類似）			
	1. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた	2. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった	3. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した	4. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ
問2	縄文時代の遺跡である貝塚が、当時の社会や生活を研究する上で「考古学的資料」として極めて重要視されている理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 香川県公立入試 類似）			
	1. 集落の周囲を深い溝で囲むことで、稲作をめぐる集落間の争いがあったことや、防衛のための組織的な仕組みがあったことを示すから。	2. 炭化した米や高床倉庫の跡が発見されることで、当時の人々が計画的に食料を生産・貯蔵していた社会構造を裏付けるから。	3. 巨大な石材を用いた石室や、死者とともに埋められた豪華な副葬品が発見されることで、当時の強力な権力者の存在を証明できるから。	4. 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。
問3	約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。（2024年 熊本県公立入試 類似）			
	1. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された	2. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した	3. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	4. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた
問4	約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。（2019年 千葉県公立入試 類似）			
	1. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた	2. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された	3. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった	4. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった
問5	山形県の西ノ前遺跡から出土した、その美しい造形から「縄文の女神」として国宝に指定されている土製品についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）			
	1. 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。	2. 飛鳥時代の寺院跡から出土した仏像の原型であり、鎮護国家の思想を反映している。	3. 古墳時代の古墳の頂上付近から発見された埴輪であり、葬られた有力者の権威を示している。	4. 弥生時代の遺跡から見つかった土偶であり、大陸から伝わった稲作の成功を祈るために使われた。
問6	青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。（2025年 北海道公立入試 類似）			
	1. 吉野ヶ里遺跡	2. 岩宿遺跡	3. 三内丸山遺跡	4. 登呂遺跡
問7	山形県舟形町で出土し、高さが約45cmあり国宝にも指定されている「縄文の女神」について述べた文として、歴史的な事実に基づいた正しい説明を選びなさい。（2019年 山形県公立入試 類似）			
	1. 弥生時代の遺跡から発見された青銅器であり、大陸との交流を示す資料である。	2. 古墳の周囲に並べられた埴輪の一種であり、武人や馬の形をしたものが多い。	3. 縄文時代中期に作られた土偶であり、当時の人々の信仰や祈りの対象であった。	4. 飛鳥時代に大陸から伝わった仏教の影響を受けて作られた、初期の仏像である。
問8	縄文時代の遺跡から多く発見される、当時の人々が定住生活を始めたことを示す遺構について、地面を掘りくぼめた床に柱を立て、屋根をかけた住居を何と呼ぶか答えなさい。（2017年 茨城県公立入試 類似）			
	1. 高床倉庫	2. 寝殿造	3. 竪穴住居	4. 書院造
問9	青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2023年 香川県公立入試 類似）			
	1. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を弔うために作られた。	2. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。	3. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。	4. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。
問10	縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）			
	1. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。	2. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。	3. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。	4. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した石製品である。
問11	縄文時代の遺跡である貝塚の周辺から発見される、表面に縄目などの特徴的な文様が施された道具について、その主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）			
	1. 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。	2. 収穫した稲を長期間蓄えるための、貯蔵専用の器として主に用いられた。	3. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を加工するための、高温の炉として用いられた。	4. 亡くなった人を埋葬する際に、副葬品として納める祭祀専用の道具として用いられた。
問12	山形県の西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」に代表される、縄文時代に作られた土製の人形について、その名称と当時の人々が込めた願いの組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）			
	1. 土偶 — 豊かな収穫や安産を祈るため	2. 勾玉 — 魔除けや身分を示す装飾品とするため	3. 銅鐙 — 稲作の豊作を願う祭りの道具とするため	4. 埴輪 — 亡くなった王の権威を示し、供養するため